

コメ生産費は法律違反 っ、なんのこっちゃ?

しかも、それでも多くの農家は赤字!

この8月に、農水省から発表された2006年産の米生産費調査によると、米を作るためにかかる費用は全国平均で60キロ当たり1万6824円だそうです。しかも・・・

この内訳で家族労働報酬をみると、全国平均は1日2046円。下落時の補てん助成金を加えても2748円にすぎず、時給にすると343円です。法律で定められている最低賃金は時給673円。その半分ほどしか計上されていない数字なのです。

また、同じく労働報酬を60kg当たりでみると、およそ5000円とされています。ちなみに今、市場で実際

に取引されている農家手取り米価は1万2000円くらいです。つまりほとんどの農家がコスト割れで、いわばタダ働きで米を生産・出荷していることとなります。

なお、作付け規模別にみると右表のようになるそうです。県北地域の出荷農家は、だいたい0.5～1haか、1～2haの規模です。つまり、タダ働きどころか、損を重ねながら田んぼを作っているというのが実態です。

どう考えても、カネのためだったらやめるのが一番ということになりますが、消費者の皆さんはどうお考えになりますか?



うちの田は大半、田植えが周囲より1ヶ月は遅く、ようやく穂がなびきはじまったところ。台風で倒されると被害甚大だなあ・・・

作付け規模別にみた米の生産費

農家規模	生産費 (円 / 60kg)
0.5ha未満	2万4000円
0.5～1ha	2万0500円
1～2ha	1万8000円
2～3ha	1万5200円
3～5ha	1万3600円
5～10ha	1万1900円
10～15ha	1万1500円
15ha以上	1万1000円

失われる中国の穀倉地帯土壌

ときどき紹介しているインターネット[農業情報研究所]からの転載です。
(<http://www.juno.iti.ne.jp/~tkitaba/>から)

中国新華網の報道によると、中国科学院(CAS)の土壌学専門家が、土壌の浸食と退化のために北東部の中国穀倉地帯が肥沃な土地を失いつつあり、国の食料安全保障が危機に曝されると警告している。

浸食と退化が進むのは、黒竜江、遼寧、吉林の3省と内蒙古自治区に広がる3,500万haの黒土だ。この地域で国の穀物の30%が生産されている。ところが、CAS傘下の地理学・農地生態学北東研究所の研究によると、この土壌の厚みがこの60年で80cmから30cmに激減した。土壌中の有機物濃度も

1940年代の12%から2%にまで減り、85%の土壌が養分不足になっている。

農業過剰開発、化学肥料の過剰使用、止まらない樹木伐採が引き起こすこの土壌浸食は、既に地方の生態系に悪影響を与え、干ばつ、洪水、砂嵐をますます頻発させている。黒竜江省は10年連続で春の干ばつに見舞われている。土壌は砂埃となって飛び去り、河川や湖沼の沈砂となり、川床を上げて洪水のリスクを高めている。

・・・(中略)・・・

研究者は、土壌水分を取り戻すために一層の池や貯水池が必要で、土壌

を安定させるために森林帯の設置も必要だと言う。また、養分を増加させるために厩肥やトウモロコシの茎を土に戻すことも勧奨している。中国北東部では、厩肥やトウモロコシの茎のような天然肥料が、毎年1億トンも生産される。これを有効に使えば、5年から10年で、500万haの低収量地を肥沃地に変えることができるという。

しかし、中国でも日本でも、このよう農業廃物は大量に焼き払われて大気を汚染、地球温暖化にも貢献している。将来は全部バイオ燃料にされ、農地に戻される廃物は皆無となるだろう。それは燃やしても食料との競合は起きないという理由だが、それが将来の食料生産を危うくする可能性など、少なくとも日本では誰も考えていない。